

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第13回女性参画推進専門委員会の審議概要について

1 開催概要

- (1) 日 時 平成31年1月22日（火）14：00～16：00
盛岡市勤労福祉会館5階大ホール
- (2) 出席者 委員12名（1名欠席）
- (3) 審議事項等
 - ① 第3期復興実施計画の取組状況について
 - ② 岩手県次期総合計画について

2 審議結果の概要

第3期復興実施計画の取組状況及び次期総合計画の案については、いずれも原案のとおり、了承された。各委員から出された主な意見は次のとおりである。

[赤坂委員]

- ・ 女性参画推進専門委員会の議論の活発化のためにも、男女間の賃金格差などの客観的なデータが必要である。

[神谷委員]

- ・ 一人当たりの県民所得などのデータを世代別、男女別として示すことで、男女間格差、世代間格差を客観的に把握できるようにして欲しい。

[大沢委員]

- ・ 他の自治体から派遣されている職員には高度なスキルや知識を持った方がおり、もっと活用する方法が無いか検討して欲しい。

[高橋委員]

- ・ 現場に目を向けると、民生委員が復興、防災関係など様々な仕事が重なり疲れている現状がある。民生委員の委嘱について、特定の個人に固定されている現状があるので、平準化などは正策について、検討していく必要がある。

[手塚委員]

- ・ 沿岸市町村の人口流出の原因究明ができていない状態で、効果的なU I ターンの推進は難しい。U I ターンによって移住して職に就いた人の市町村の内訳、移住先から離職した方の市町村の内訳などの統計も把握する必要がある。
- ・ 女性のライフステージに応じたセミナーについて、中高生向けのセミナー開催も検討して欲しい。

[平賀委員]

- ・ 男女間の賃金格差、若年男性の長時間労働により、家庭の仕事は女性が行うという役割の分担が生まれ、女性の生きにくさにつながっている。現状把握のために、データを細かにとりながら、原因の究明をして欲しい。

[藤澤委員]

- ・ 女性が活躍、参画するためには、現状をよく把握し、対策を立て、その支援策にアクセスしやすい仕組みをつくることが大切だと考える。
- ・ 女性参画のためには、女性だけが頑張るのではなく、男性の理解、意識改革の必要がある。また、男性の産休、育休の仕組みづくりも進めて欲しい。

[村松委員]

- ・ 県職員の女性管理職の割合の低さなど残念な現状を県民が知ることも大切である。また、様々な施策によって、それがどう変わったのか、変えるのかを県民が感じられるようにしていく必要がある。
- ・ 少子化、担い手不足が深刻である。外国人労働者の受け入れの見込みを立てておく必要がある。

[盛合委員]

- ・ 女性の登用問題などの男女共同参画の面においては、震災前後で住民の意識の変化はないように思える。また、男女参画に関わる県の施策が市町村には十分伝わっていないのではないか。

[山屋委員]

- ・ 女性の働き方改革、子育て支援、男女共同参画など、県の施策が県民に伝わるような仕組みづくりが大切だと考える。また、女性参画等についても県の施策に対する県民の声を、次の施策に反映させられるような仕組みづくりが必要である。

[両川委員]

- ・ 県民の幸福実現のためには、各分野の計画推進について、横断的にチェック、調整していく組織、機関が必要であるが、女性参画等の分野においても、その機能が十分果たされるよう整備をお願いしたい。

[菅原委員長]

- ・ 地域で、女性のリーダーをもっと育成していく必要がある。
- ・ ライフデザインや男女共同参画について、中高生のうちから意識改革をしていく必要がある。